平成28年度　沖縄県立総合教育センター特別支援教育班　後期長期研修員　第２回検証授業

地理Ａ学習指導案

日　　時：平成28年12月20日（火）

２校時（10:00～10:50）

場　　所：２年次Ａ組教室

対象生徒：地理Ａ登録者（22名）

男子10名、女子12名

授 業 者：吉里　真理江

**Ⅰ　研究テーマ**

定時制高校における学び直しを踏まえた授業の工夫

―授業のユニバーサルデザイン化と協働学習を通して―

**Ⅱ　研究仮説**

ユニバーサルデザインを意識した授業や協働学習の中で、必要に応じて義務教育段階の「学び直し」を行い、基礎・基本の定着を図ることで、生徒は学ぶ喜びを知り、学習に取り組む姿勢が培われるであろう。

**Ⅲ　研究テーマとの関わり**

平成26年中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～では、生徒の多様化の進む定時制高校の現状を「多様な学びのニーズへの受け皿としてその役割が増している」とし、「不登校・中途退学経験者等への学び直しの機会の提供など、困難を抱える生徒の自立支援等の面でも大きく期待されるようになっている」とまとめている。文部科学省が行った平成26年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査では、定時制高校に在籍する不登校者の割合を17％と報告しており、これは全日制1.1％と比べると極めて高い数値である。

平成21年の特別支援教育の推進に関する調査研究協力者会議高等学校ワーキンググループは、高等学校に進学する生徒のうち発達障害等困難のある生徒の定時制高校における割合を、14.1％としている。全日制の割合が1.8％であるから、定時制高校には不登校や発達障害の生徒をはじめとして何らかの「支援を必要する生徒」が相当数存在していると言えよう。このような生徒に対して、学び直しの機会を提供し学校生活を円滑に過ごせるよう適切な支援を行うことは、喫緊の課題である。

沖縄県立泊高等学校は、通信制課程および定時制課程（午前部・夜間部）を併設する単位制普通科の学校である。午前部（以下、本校）に在籍する生徒の平均年齢は17.8歳と若年者がほとんどで、その多くが中学校までに不登校を経験している。また、療育手帳を所持する生徒や発達障害の診断を受けている生徒もおり、特に診断はないが何らかの支援を必要する生徒も少なくない。そのため、中学校から申し送りのあった生徒を中心に、特別な支援を必要とする生徒については全職員で情報を共有し、共通理解を図っており、今年度は、約30％が何らかの支援を必要とする生徒であった。生徒の中には、「うまく友人や級友と関われない」、「集団に入ることができない」など人間関係の形成に苦手意識が強く、「一斉での指導が通りにくい」、「板書が写せない」といった発達障害等に起因すると思われる困難さから、学習の基礎・基本が定着していない者も多い。

学習の基礎・基本の定着について、高等学校学習指導要領総則は、「各教科・科目の指導に当たり、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための学習機会を設けること」と規定し、学習の遅れがちな生徒には、障害のある・なしにかかわらず、学び直しへの配慮が必要とされている。特別な支援を必要とする生徒が多数在籍する本校でも、授業を行う上での配慮・工夫が求められる。そこで、授業を展開するにあたり、ユニバーサルデザイン（以下ＵＤ）の視点と協働学習等の生徒の主体的な学習活動と学び直しを行うことで、生徒は学習の基礎・基本を理解し、その過程で学ぶ喜びを味わい学習意欲が高まるのはないかと考え、本テーマを設定した。

以上のことから、この検証授業では、「焦点化」「授業内容の視覚化」「共有化」の授業ＵＤの視点に立った授業を展開し、義務教育段階で既習済み事項の「学び直し」を図ることで、高等学校段階の基礎・基本の理解を促し、生徒の学習意欲を高めるのに有効であるのかを検証する。

１ 生徒観

本校は単位制ため、生徒は決められた時間割とおりの授業を受けるのではなく、提供されている授業の中から自分に必要な授業を選んで登録するという形態である。ただし、必履修科目が単位修得しやすいよう1.2年次については時間割を編成している。そのため1･2年次は、原則としてクラスの時間割とおりの授業を受けるが、既に単位修得済み科目の時間は、未修得科目の授業を別のクラスで受けることになる。本時は、２年次Ａ組（以下、Ａ組）の時間割に置かれており、Ａ組生徒20名および3･4年次生徒２名の合計22名が授業登録をしている。しかし、欠席者も多く遅刻し途中から参加する生徒も珍しくない。時には、筆記用具すら持たず授業に参加する者もいるなど、基本的な学習態度が確立してない生徒もいる一方で、毎回授業に出席し、学業に励む生徒もいる。

全体的に、義務教育の学習内容の定着が十分ではなく、生徒の大多数は大人しく、2､3人でグループを作っている生徒や集団に馴染めず一人で行動する生徒が混在し、同じクラスで半年以上学校生活を共にしているのにも関わらずお互い同士のコミュニケーションはほとんどなく、学校行事などクラス単位で活動する場面でも、自分たちで話し合いをすることが難しい。

２ 題材観

本単元は、世界の諸地域の生活・文化が多様性に富むことを理解し、異文化を理解・尊重することの重要性を考察させる内容となっている。世界の諸地域の生活・文化は、自然環境・社会環境が深くかかわって形成され、その学習に関して高等学校学習指導要領解説地理歴史編は、「中学校社会科地理的分野の内容や生物・地学的な事象の学習内容を踏まえつつ、広い視野から学べるよう工夫する必要がある」としている。本時はアメリカ合衆国の農業について学習するが、「適地適作」「企業的農業」など、義務教育段階で学習すべき内容を取り上げて学び直しを図りながら、高校の学習内容へと深化させる。特に「適地適作」については、焦点化を図り、アメリカの農業地域を既習事項である気候の特徴と関連付けながら、グループ活動を通して互いに協力して考察していく。

３ 指導観

中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会審議まとめ～高校教育の質の確保・向上に向けて～では、必履修教科・科目の「内容を十分に理解するためには、義務教育段階の学習内容が定着していることが前提」としている。しかしながら本校には、「基本的な国名が分からない」「世界全図から日本を探せない」など義務教育段階の学習が定着しておらず、高校の学習内容を理解するには困難な生徒が多く、「板書事項を正しく写せない」、「一斉の指示が通らない」といった生徒もいる。

このような学習に課題のある生徒のみならず全ての生徒が義務教育段階の学習内容をおさえ、高校の学習内容まで理解できるよう、授業ＵＤ視点を取り入れた授業を展開する。本時では、「授業内容の視覚化」として授業目標および学習の流れを提示、ＩＣＴを活用して授業内容を具体化することで学習内容のイメージしやすいよう支援して理解をすすめる。さらに、グループで話し合う活動によって学習内容の「共有化」することで、より学習内容の基礎・基本の定着を図る。

グループ構成員については、コミュニケーションの苦手な者同士が集まらないよう、教師側で決める。活動においても、机間指導を行いながら観察し、必要に応じて教師が介入することで話し合いが進むよう配慮する。

**Ⅳ　使用教科書　『**高校生の地理Ａ』（帝国書院）、『標準高等地図－地図で読む現代社会－』（帝国書院）

**Ⅴ　単元名**第１部 現代世界の特色と世界の諸地域の課題 ３章 世界の諸地域の生活・文化 ９節 アメリカ合衆国

**Ⅵ　単元の目標**アメリカ合衆国の生活・文化について、地理的な視点からその地域的特色と我が国との関連に

ついて理解する。

**Ⅶ　指導計画**　　総授業時数４時間

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 単元 | ねらい | 主な評価の観点 |
| ① | アメリカ合衆国の自然 | アメリカ合衆国の自然について、多様な自然環境があることに気づかせ、多様な気候・地形が人々の生活に与える影響を考察する。 | 【知識・理解】  アメリカ合衆国の地域的特色について、基本的知識を身に付けている。 |
| ② | 移民国家としての歴史と多文化社会 | アメリカ合衆国の多様な文化について、建国の歴史の中から理解させ、多民族・多文化社会の現状と課題を考察する。 | 【知識・理解】  アメリカの多様な文化・社会について、建国の歴史など基本的知識を身に付けている。 |
| ③ | 世界の市場に影響する農業 | アメリカ合衆国の農業地域の特徴について考察し、アメリカの農業が世界に与える影響を理解する。 | 【思考・判断・表現】  アメリカの農業区分について、気候と関連付けながら考察することができる。 |
| ④ | 世界をリードするアメリカ合衆国の工業 | 最先端産業が発展し、世界の工業をリードしているアメリカの工業について考察する。 | 【思考・判断・表現】  アメリカの工業発展について、国際的な視点から考察できる。 |

**Ⅷ　授業の手立て**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 教科指導の工夫 | 学級全体への手立て | 個別配慮 |
| 焦点化 | ・学び直し項目の学習  ・授業内容の精選 | ・最低限理解してほしい基礎・基本を問題にまとめる。 |
| 視覚化 | ・導入時に本時の授業の流れ、学習目標を確認して、見通しを持たせる。  ・板書事項・ワークシートのルビふり  ・ワークシートにそった板書  ・ICTの活用 | ・机間巡視を通して、ワークシートの進み具合を確認し、その都度指導する。 |
| 共有化 | ・グループまたはペアによる学習場面の設定 | ・グループ・ペアの相手について相性等を  考え配慮する。  ・発言が苦手な場合は、紙に書きだしても  よい。 |
| その他 | ・説明や指示は、具体的に短い文章で行う。  ・発言をしたり、積極的に話し合いに参加できた生徒には、その都度ほめる。（雰囲気づくり）  ・学習作業化・動作化を行う。 | ・文章化する活動が難しい生徒には、リー  ド文や穴埋め式の文章を示して、学習に  取り組めるようにする。 |

**Ⅸ　本時の指導**（３/４時間）

１ 本時の目標

(1) アメリカの農業区分について、気候と関連付けながらグループで考察することができる。

　 　(2) アメリカの農業が、世界の農業に大きな影響力を持つことを理解する。

２　評価規準

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 関心・意欲・態度 | 思考・判断・表現 | 資料活用の技能 | 知識・理解 |
| アメリカの農業について、関心を高め、意欲的に追究しようとしている。 | アメリカの農業について、気候等と関連させながら考察することができる。 | 地図帳や統計資料、図表から、有用な情報を読み取ることができる。 | アメリカの農業の特色について、義務教育段階の内容を含め、基本的事項を理解する。 |

３　学び直し事項

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 小学校段階 | ・４方位（東西南北） | 地図の読み取りに必要となる知識。 |
| 中学校段階 | ・日本及び周辺国の位置・国名・首都名 | 日本を中心に世界の地域構成を大観する。 |
| ・企業的農業 | アメリカの農業の特色を再確認し、高校での学習内容へ深化する。 |
| ・適地適作 | 農業と気候との関連について再確認し、高校での学習内容へ深化する。 |

４　本時の展開（◆学び直し　【視】視覚化　【共】共有化）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 学習内容 | 生徒の学習活動 | 指導上の留意点・学習支援 | | 評価 |
| 全体への手立て | 個への手立て |
| 導入（5分） | 前時までの復習・確認  本時の目標を確認  ①アメリカの農業について、グループで考える。  ②アメリカの農業が世界に与える影響について理解する。 | グループ編成  教師の発問に答える  ◆日本・中国・韓国・北朝鮮、ロシア、アメリカの位置、国名 | ・生徒同士の相性・特性を考慮して、グループを編成。  ◆【視】ICTを使い、各国の位置を視覚的に確認。  【視】本時の流れ、目標を提示する。 |  | 関心  ・  意欲  ・  態度 |
| 展開①（25分） | 世界の市場に影響を及ぼす農業  ◆企業的農業  ◆適地適作 | ファストフード店の代表的なセットメニューの原材料から、アメリカで主に生産されている農作物を認識する。  企業的農業を営むことで、大量の農産物を安価で輸出することが可能ということを理解する。  T アメリカは、たくさんの種類の農作物を大量に生産して、輸出しています。  T 大量の農作物を生産するためには、たくさんの人手が必要だと思いますか？  （挙手させる）  T アメリカでは大型農業機械を導入しているところが多く、人手はあまり必要としていません。  そのため、大量の農産物を安い値段で輸出することができます。  気温や降水量と関連付けながら、アメリカの農業分布について考察する。  作業  T 農業は、気温や降水量など気候に左右されます。  　前時に学習したアメリカの気候区分を参考に、自分ならどこで何を栽培するか考えて、作物カードを地図に貼りましょう。  【共】グループ活動  T グループ内で、自分の答え  とその理由を簡単に説明  し合いましょう。  ・答え合わせ  五大湖周辺：酪農  中央平原～プレーリー：  大豆・トウモロコシ  グレートプレーンズ：小麦、肉牛（フィードロット）  南東部：綿花  ・アメリカの農業分布から気づいたことをまとめる。  アメリカの農業は、  年降水量500mmを境に、雨の少ない西側は牧畜、雨の多い東側は畑作である | 【視】実物または写真を  提示し、興味を引  き付ける。  【視】農産物の輸出に占  めるアメリカの割  合やアメリカの農  場（写真）を示し、  生産量をイメージ  できるよう支援。  【視】先に提示した農場  の写真から、機械  化等によって合理  的に経営している  ことを理解できる  よう支援。  【視】写真カードを使  い、視覚的に作物  を認識する。  ・基本話型を示す。  「私は〇〇では△△を栽培していると思います。」  「なぜなら、〇〇の気候は××だからです。」  【視】プリントの地図を  用いて解答するこ  とで、どこに記入  するか分かりやす  くする。  ・文章化が難しい場合  は、リード文を示す。  ◆【視】解答時に４方位（東西南北）を画像で提示して確認する。 | ・机間巡視で、プ  リント記入等学  習状況を確認し  必要に応じて支  援する。  ・プリントと同じ地図及び気候入りの地図を補助プリントとして用意し、好きなほうで作業を行う。  ・活動に参加できていない生徒がいれば、教師が介入して話し合いに入れる。  ・リード文でも厳しい場合は、穴埋め式で例文を提示する。 | 思考  ・  判断  ・  表現  思考  ・  判断  ・  表現 |
| 展開②（10分） | アグリビジネス企業とその影響  アグリビジネス  穀物メジャー | ・農業はアメリカにおいて一大産業であり、アグリビジネス企業がそれをどのように支えているか理解する。  農業の規模が大きく、労働者  は少ない→合理的経営  農業機械の大型化、  農薬・肥料  品種改良・遺伝子組み換え  　　　　　↓  アグリビジネス企業の存在  穀物メジャーの市場支配 | 【視】板書事項は、でき  る限りプリント  と同じ形で行う。  【視】ICTを使い、どの  　　 ような手段で合理  　 化しているのか示  し、合理的経営に  ついてイメージで  きるよう支援する。 | ・机間巡視をしながらプリント記入ができているか確認する。 | 知識  ・  理解 |
| まとめ（10分） | 本時のまとめ | ・本時の学習を確認する簡単な確認問題を解く。  ・肉牛（の放牧）  ・小麦  ・酪農  ・大豆、トウモロコシ  ・綿花  ・適地適作  ・センターピボット  ・フィードロット  ・アグリビジネス  ・穀物メジャー  ・リフレクションカードを記入する。 |  | 【視】教師で〇つ  けを行い、  理解度を視  覚的に意識  させる。  ・選択肢入り問題  と選択肢なし問  題を用意し、好  きなほうを解答  する。 | 知識  ・  理解 |

**Ⅹ　仮説の検証**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 項目 | 検証の観点 | 検証の方法 |
| １ | 授業UDの視点（「焦点化」「視覚化」「共有化」）や学び直しを取り入れた授業を通して、学習の基礎・基本が理解できたか。 | 授業後の確認問題から検証する。 |
| ２ | 授業UDの視点（「焦点化」「視覚化」「共有化」）や学び直しを取り入れた授業を通して、学習意欲が向上したか。 | ワークシートの記入状況やリフレクションシートから考察する。 |